SOLUTION CATALOG

ソフトバンクが描く
子どもたちの学びDX

さぁ、挑戦しよう 学びの未来へ。

令和8年10月 ver.1.1



SoftBank

さぁ、挑戦しよう
学びの未来へ。

GIGAスクール構想の推進をきっかけとして、
教育の情報化は進化の一途を辿り、教育現場を取り巻く環境は大きく変わり
続けています。子どもたちの一人一台端末やクラウドサービスの活用が
教育現場に定着しつつある一方で、学びの多様化や先生方の校務負担など、
依然として多くの課題も生まれています。

こうした課題に対し、ソフトバンクはAIをはじめとする最先端の
テクノロジーを活用し、子どもたちの学びと先生方の校務、
その両面のDXを通じて、教育の未来を皆さまと共に描きます。

本カタログでは、教育現場を幅広く支えるソフトバンクの
取り組みをご紹介します。そこには皆さまがお持ちのさまざまな課題を
解決に導くヒントがあります。

「さぁ、挑戦しよう 学びの未来へ。」
その一歩として、共に描く未来をのぞいてみませんか。

SoftBank



ソフトバンクが描く
子どもたちの学びと先生方の校務のDX

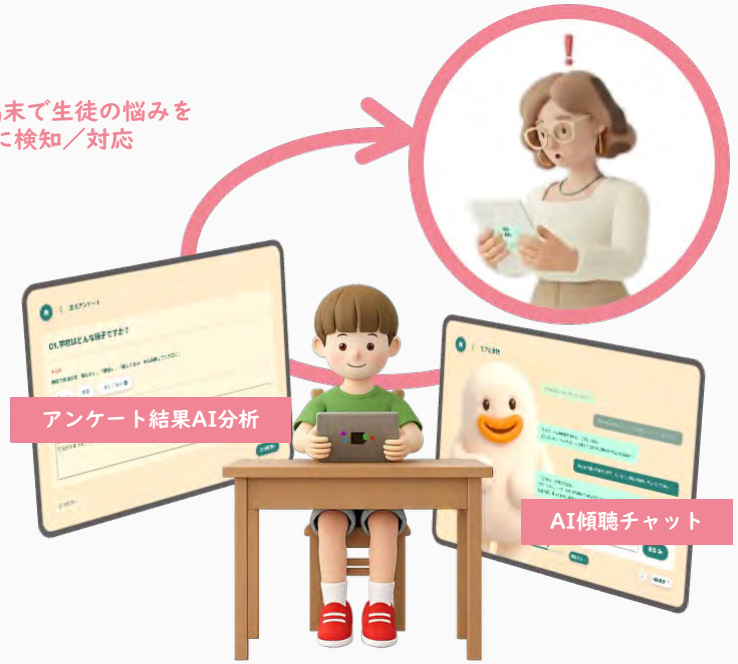
掲載ソリューション

- 生徒の心のケアを行う教師のための支援ツール
  メンタリ
- 体育・部活動の「学ぶ・試す・伸びる」を支えるICTツール
  AIスマートコーチ
- 実践的な受験対策と学習改善を支援する学習プラットフォーム
  MiLoa
- 子どもたちの未来を創る体力テスト
  ALPHA
- AI同時翻訳ツール
  ポケトーク for スクール
- LINEを使った保護者連絡ツール
  LINEスクール 連絡帳
- 探究学習を通じてAI活用人材を育成するプログラム
  AIチャレンジ
- 利活用研修（iPad基礎／応用）
- 教職員向け生成AIセミナー
- 教職員用スマートフォン
- 教育情報ネットワーク
- 高等学校向け一人一台学習用タブレット
- ハイブリッド授業を成功させる遠隔授業ソリューション
- クラウド録画AIサービス
  LINE WORKS Vision
- 大学DXを実現するスマートキャンパス

生徒の心のケアを行う教師のための支援ツール

メンタリ

生成AIによる傾聴チャットとリスク分析で生徒対応を迅速化



tags

利用者	● 児童生徒	● 教員	○ 保護者		
ロケーション	● 教室	● 職員室	○ 体育館・グラウンド	● 学校全体	● 自宅
校　種	● 小中学校	● 高校	○ 大学		
シーン	○ 授業	● 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　○ 保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

我々が提供する「メンタリ」は、先生方が日々の生徒対応を効率的かつ適正に行える支援ツールであり、子どもたちにとっても自分の悩みを相談できる新しい入り口を提供できるサービスです。
学校の各種生活アンケートの結果をAIで分析し、支援が必要な子どもをいち早く発見し、先生方に即時にアラートをあげます。また、子どもたちの言葉にしづらい悩みをAIチャットが寄り添いながら傾聴し状況を把握、専門家の類似事例・対処法とともに先生方に提示します。これらにより先生方による子どもたちへの対応を迅速かつ適切に行うことが可能となります。



information　● 無料トライアル募集中

メンタリでは、実証を行っていただける自治体、学校を募集しています。子どもたちの心のケアを適切に実施できるかを検証するためには、数カ月間ではなく、長期間の効果検証が必要と考え、実証期間中の12カ月間は「メンタリ」を無料でご利用いただき、実証を行っていただきたいと考えます。ぜひご応募ください。

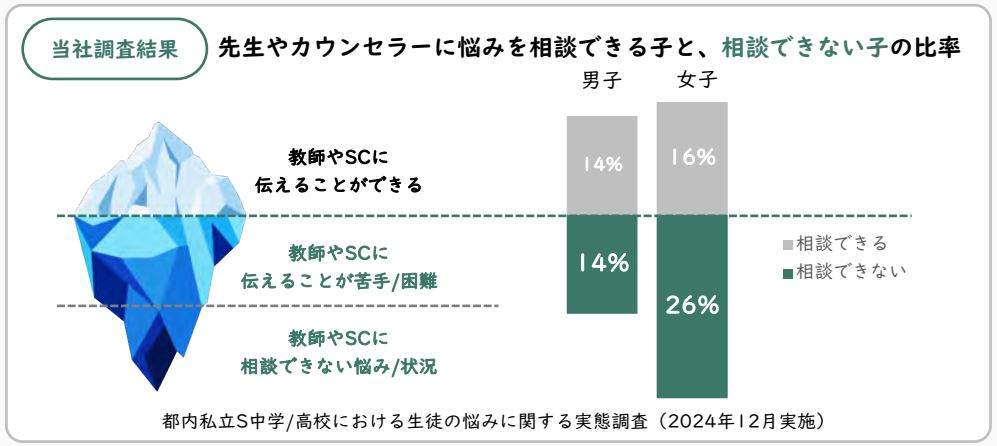
お問い合わせ・詳細

URL　https://www.softbank.jp/business/service/other/mentari/

公式ウェブサイト

背景と解決したい課題

大人に相談ができずに一人で悩みを抱え込んでしまう子どもたちが、いつの間にか重篤な状況に追い込まれてしまうことが日々起きています。子どもたちの心のケアは、先生方にとって非常に重要な校務の一つとなっていますが、悩みを迅速に検知できなかったり、対応方法に不安があるなど、適切で即効的な解決策が見出せていないのが現状です。



都内私立S中学/高校における生徒の悩みに関する実態調査（2024年12月実施）

ポイント

生成AIチャットのキャラクター「モフ」は、勝手なアドバイスは行わず、子どもたちに寄り添いながら傾聴だけを行います。傾聴しながら子どもたちの悩みを言語化するお手伝いをします。メンタリで得られた情報を活用しながらも、最終的には「人と人」を基本とし、先生方から子どもたちへのケアを適切に行っていただける設計となっています。



モフが悩みを
傾聴



先生方がいち早く
状況把握



最後は
「人と人」が基本

目指す姿

子どもたちが自身の悩みをいつでも気軽に相談できる環境を提供することは必要不可欠です。そのためには、それを受け止める先生方へ、十分な対応ができる仕組みと体制の提供が必要です。

「空振りはOK、でも見逃しは絶対ダメ！」
悩みを持つ子どもたちを誰一人見逃さない、寄り添って笑顔にできる、そんな学校環境を実現できることを我々は目指しています。

導入メリット

今後「一人一台端末」での子どもたちの心のケアは全国で加速していきます。「こころの健康観察」を毎日のセルフチェックとして行うことで、今まで以上に子どもたちの悩みを吸い上げることができるでしょう。しかしながら、これまで以上に子どもたちの心のケアを行う機会は増加し、先生方の負担も増加していきます。

メンタリは、子どもたちの悩みの迅速な検知だけでなく、先生方による面談や、実際に起きている事案の解決に向けて後続の対応をしっかりと支援し、迅速で最適な子どもたちの心のケアを実現することができます。



体育・部活動の「学ぶ・試す・伸びる」を支えるICTツール

AIスマートコーチ

運動・スポーツの上達を後押しし、児童生徒の主体的・協働的な学びをサポート

ぐんぐん伸びるスポーツ練習アプリ

体育各単元 ＋ 運動競技 全23種目 対応



App Store からダウンロード

Web版 はこちら



tags

利用者	● 児童生徒	● 教員	○ 保護者		
ロケーション	○ 教室	○ 職員室	● 体育館・グラウンド	○ 学校全体	○ 自宅
校　種	● 小中学校	○ 高校	○ 大学		
シーン	● 授業	○ 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　○ 保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要



1．まなぶ　動画で学ぶ

筑波大学やプロ監修のお手本動画で
正しい動作を視覚的にインプット



2．くらべる　撮って比較する

自分の動きをお手本と並べ、
AI骨格解析で「理想とズレ」を客観視

小学校体育授業向け

- **体育授業の質向上を支えるICTサービス**

動画と撮影・比較・振り返りで、個別最適・協働的な学びを支援。
学習指導要領に準拠し、日本体育大学 白旗和也教授監修。

- **子どもが自ら気づき、学べる授業へ**

自分の動きを見て比べ、気づきから改善につなげる。
動画・撮影・比較・振り返りで主体的な学びを促進。

- **豊富な教材を、現場で活用**

約400本の体育動画を、いつでも・どこでも活用。
マット・鉄棒・跳び箱・水泳などに対応し、オフラインでも利用可能。

中学校部活動向け

- **部活動での技能向上を支えるICTサービス**

動画と撮影・比較・振り返りで、一人ひとりの技能向上を支援。生徒自身が課題を見つけ、主体的に取り組む練習をサポート。

- **生徒が自ら気づき、上達できる練習へ**

自分の動きを見て比べ、気づきから上達につなげる。
お手本や過去の動きと比較し、課題や改善ポイントを発見。

- **豊富な動画教材を、日々の部活動で活用**

競技の基本や練習方法を、動画で手軽に確認。
個人練習からチームでの学び合いまで幅広くサポート。

お問い合わせ・詳細

URL　https://smartcoach.mb.softbank.jp/lp/

公式ウェブサイト

背景と解決したい課題

- **【小学校体育】子どもの体育への苦手意識**

子どもの運動技能や意欲は二極化しており、学年が進むほど苦手意識を持つ子どもの運動意欲低下が懸念されます。全体指導と個別支援を両立し、誰一人取り残されずに学び合える授業を支えるICT活用が必要です。

- **【中学校部活動】限られた指導環境での技能向上**

部活動では、限られた活動時間や指導体制の中で、生徒一人ひとりに十分な指導機会を確保することが課題です。指導者だけに頼るのではなく、生徒自身が動きを客観的に捉え、課題に気づき、仲間と学び合いながら主体的に技能を高められるICT活用が必要です。

目指す姿

- **【小学校体育】子どもが自ら学び、誰もが「できた」を実感できる体育授業へ**

動画を通じて自分の動きを客観的に捉え、振り返りや仲間との学び合いを重ねることで、一人ひとりが自分のペースで「できた」を積み上げ、体育への自信と意欲を育みます。
あわせて、先生の指導を支援し、個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業を目指します。

- **【中学校部活動】生徒が自ら考え、仲間と高め合いながら上達できる部活動へ**

動画を通じて自分の動きを客観的に捉え、課題や改善点に自ら気づき、仲間と学び合いながら主体的に技能を高めます。あわせて、指導者の指導を支援し、限られた活動時間や指導体制の中でも、一人ひとりが成長を実感できる部活動を目指します。

ポイント

- **子どもが自ら気づき、主体的に改善できる**

動画で自分の動きを客観的に確認・比較することで、感覚と実際の動きの違いや改善点に気づき、自ら考えながら技能の向上に取り組むことができます。

- **意欲向上・対話促進に効果**

動画を見ながら仲間と動きを確認したり、アドバイスし合ったりすることで、コミュニケーションが生まれ、運動への意欲向上と主体的・協働的な学びにつながります。

- **先生にとっても授業で活用しやすい**

動画教材や撮影・比較・振り返り機能を活用することで、ポイントを分かりやすく伝えられ、一人ひとりの気づきや学びを支援。日々の授業や活動に取り入れやすく、効果的な指導をサポートします。

導入事例

導入事例❶
体育の授業での「探究的な学び」（東京学芸大学付属小金井小学校）

■ 課題
難易度の高い技に対する恐怖心
言語化しにくい動作の指導

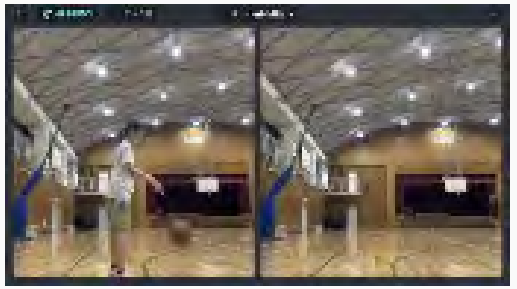
■ 実践
児童同士で撮影し、お手本動画と比較。「技が成功するポイント（重要局面）」を自ら定義し、分析と仮説検証のPDCAを実施

■ 結果
「自分の動きを客観視できた」
「最初はできなかった技ができるようになった」
という達成感と運動嫌いの解消に貢献



導入事例❷
部活動における「スキルアップと協働」（泉大津市東陽中学校）

■ バスケットボール部



日本代表やプロ選手のシュート・ドリブルとお手本を比較。憧れの選手を徹底的にモデリングすることで高度なスキルアップとモチベーション向上を実現

■ ダンス部



グループのダンス練習を撮影し、メンバー同士で動きを比較。フォーメーションやタイミングの「ズレ」を視覚的に発見し、チーム全体で動きを揃える協働作業に活用

実践的な受験対策と学習改善を支援する 学習プラットフォーム

MiLoa

本番さながらの模擬試験と学習データ分析で効果的な受験対策を実現



模擬試験を何度でも受験できる

実践型テスト特化 学習プラットフォーム

tags

利用者	● 児童生徒	● 教員	○ 保護者		
ロケーション	● 教室	● 職員室	○ 体育館・グラウンド	○ 学校全体	● 自宅
校　種	○ 小中学校	● 高校	○ 大学		
シーン	● 授業	● 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　○ 保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

● **ポイント1**
AIが生成する本番さながらの模擬テストを何度でも受験でき、実践を重ねながら受験本番に必要な力を効率よく養います。



▶大学入試共通テスト（英語）画面

● **ポイント2**
大学・学部ごとの出題傾向を再現した問題と即時採点・解説により、苦手分野を可視化。
また、問題を引用できるチャット機能等も充実。効果的な学習改善につなげます。

● **ポイント3**
学習履歴や成績推移を一元管理し、生徒一人ひとりに合わせた学習支援と進路指導をデータに基づいてサポートします。



▶ 苦手な問題をもとにチャットで対策を生成する「苦手レポート」機能

お問い合わせ・詳細

Mail　公共本部 教育DX推進部　SBMGRP-EduICT-prom@g.softbank.co.jp

背景と解決したい課題

大学入試対策では、過去問や模試を活用した実践演習が重要ですが、教材費や受験回数には限りがあり、十分な演習量を確保できないケースがあります。また、採点後の振り返りや苦手分野の整理が生徒任せになりやすく、継続的な学習改善につながりにくいことも課題です。教職員側にとっても、生徒一人ひとりの学習状況や理解度を把握し、適切な指導や進路支援へつなげるための負担が大きくなっています。



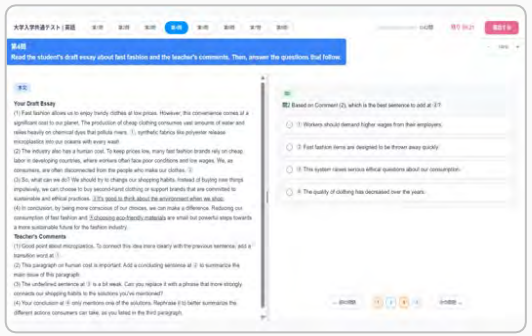
目指す姿

生徒が時間や回数を気にせず、本番さながらの模擬テストに繰り返し挑戦できる学習環境を実現します。受験後は即時採点と解説により理解を深め、学習履歴や成績推移、苦手分野を可視化することで、自ら課題を発見し改善できる学習サイクルを構築します。教職員も生徒の状況をデータで把握し、一人ひとりに合わせた学習支援や進路指導を行える状態を目指します。



ポイント

導入効果を高めるためには、模擬テストを受験するだけでなく、採点結果や解説、苦手分野の分析までを一連の学習サイクルとして活用することが重要です。授業内での定期的な受験や、自宅学習での反復演習など、学校ごとの運用ルールを定めることで継続的な利用につながります。さらに、教職員向けの学習データを面談や進路指導に活用することで、生徒ごとに適した支援を実現できます。

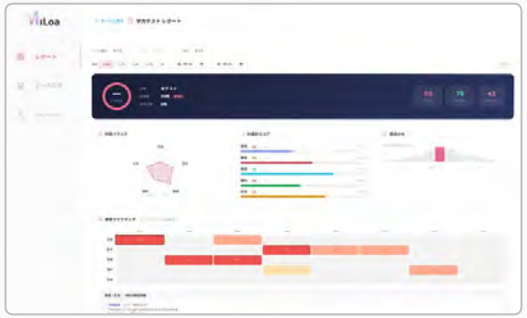




▶教職員向けの学習データを面談や進路指導に活用できる

その他、特長的な機能

MiLoaは、本番さながらのAI生成模擬テストに加え、学習効果を高める多彩な機能を搭載しています。
テスト結果から苦手分野を自動で分析する「苦手レポート」では、自身の弱点を可視化し、重点的な復習につなげることができます。
また、「MirAI Chat」では、間違えた問題や苦手単元についてAIへ質問し、自分に合った解説や例題を通じて理解を深められます。
さらに、学年や時期に応じた「毎月模試」を実施し、継続的な実力測定と学習成果の確認を支援します。
実践・分析・理解を一つのサービス内で循環させることで、効率的な受験対策を実現します。



▶模擬試験の結果を集積できる

子どもたちの未来を創る体力テスト

ALPHA

個別最適で自発的な学びを体育から
体力テストデジタル集計システム —ALPHA—



体力テスト実施からデータ分析、
継続的な体力づくりまで、
すべてをワンストップで完結

tags

利用者	● 児童生徒	● 教員	○ 保護者		
ロケーション	● 教室	● 職員室	● 体育館・グラウンド	○ 学校全体	● 自宅
校　種	● 小中学校	● 高校	○ 大学		
シーン	● 授業	● 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　○ 保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

- **年間を通じて、ワンストップでサポート**
  - ○ 体力テストALPHAは、準備・実施・記録・集計・分析・提出・目標設定・継続的な体力づくりまでを、一気通貫でサポートするSaaSプラットフォームです。
- **あらゆるGIGA端末に対応**
  - ○ PC・タブレット・スマートフォンなどあらゆる端末に対応し、小学校から高校まで幅広く活用されています。
- **リアルタイムでデータを可視化**
  - ○ 児童生徒個人および教職員（学校）の環境において、即時に記録や集計結果を確認することが可能です。
  - ○ 測定後すぐに「あと○cmで1点上がる！」という具体的な気づきが得られ、学校もすぐに次の授業づくりに活かすことができます。
- **体育での個別最適な学びを支援**
  - ○ 体力テストの結果と児童生徒が自身で設定した目標をかけ合わせて、個別最適化された運動動画を提示、次の運動習慣形成をサポートします。
- **全国の自治体や学校で導入中**
  - ○ 2026年度時点で、全国約5,200校・約180万人が利用中。
  - ○ 自治体単位では、103市町村がALPHAを導入中です（実証実験を含む）。
  - ○ 満足度89%・継続意向94%





お問い合わせ・詳細

URL	Pestalozzi Technology株式会社	https://pestalozzi-tech.com
Mail	国内学校向けALPHA事業本部 営業課	sales@pestalozzi-tech.com

公式ウェブサイト

成長を支える体力テストへ

子どもたちの基礎体力・運動意欲の低下が深刻化し、社会全体の課題となっています。苦手な子ほど体力テストの結果と向き合う機会を失い、運動から遠ざかる悪循環が続いています。
体力テストを「年1回の測定イベント」で終わらせず、先生も集計作業ではなく個別指導に時間を割けるようなサイクルを生み出します。



■ 体力合計点の経年変化

年間活用で成長を可視化

個別最適化された運動動画の提示や、最大12年間分の体力テストデータ蓄積を通じて、体力テストを「やりっぱなしの測定」から「子どもの成長を支える年間ツール」へ変えていきます。すべての子どもが自分の成長を実感し、自ら目標を立て、次のアクションに向けて主体的に動き出せる環境をつくります。



体育の授業そのものを変える

体力テストの測定にとどまらず、体育授業や単元学習と連動した活用が全国に広がっています。
【えりも町立えりも岬小学校】授業のウォーミングアップに1-2種目の測定を取り入れ、ALPHA内で日々の記録を集計分析。（※体力テストの結果を毎日登録できる、トレーニング機能を活用）
一人ひとりに合わせたおすすめの運動動画の活用を通じて、次の目標設定やどうやったら課題を解決できるかなどの思考を支援。



ALPHA導入効果

一校あたりの体力テスト
業務量最大削減率
約90%



教職員の声

- 「あと0cmで1点あがる！もう一度挑戦してみよう。」と言う子どもの声が増えました。
- 導入により業務が改善され、働き方改革への大きな一手となりました。
- 保護者から「結果が見やすい」とのお言葉をいただきました。
- 目の前で体力テストの点数が更新されていくため、子どもたちも体力テストへの挑戦意欲がとても増しています。

ALPHA活用による
体力合計点の向上平均

小学校 **+0.9点**



中学校 **+3.2点**



児童・生徒の声

- 結果がすぐ分かるので、次も頑張ろうと思った。
- お手本動画で体力テストのルールやコツを知ることができた。
- 自分だけの運動動画を家でも取り組んでみたい。
- 今までの自分の記録と比較できるのが勉強になった。

子どもが自ら動き出す

「おすすめの運動をやってみたら記録が伸びた！」という声がありました。家庭で保護者と一緒に運動に取り組む生徒もいました。
（北九州市立尾倉中学校 Y・U先生）

自分自身の結果にこれまで以上に興味を持っていました。苦手な種目のある生徒が結果をすぐに受け止め、悔しがっている様子も見られました。
（奥州市立前沢中学校 T・N先生）



事例のご紹介

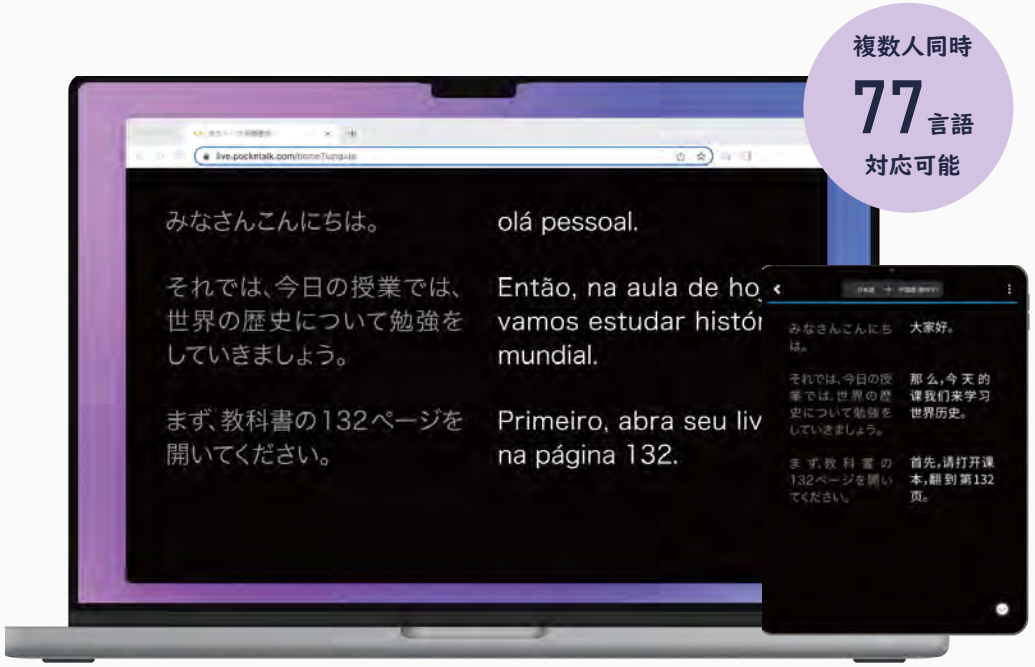


YouTube
「ALPHA導入事例」ご紹介中
https://youtu.be/RCKArlFjXUc

AI同時翻訳ツール

ポケトーク for スクール

授業が、母国語で分かる。
だれ一人取り残さない、教育現場の新しい当たり前。



tags

利用者	● 児童生徒	● 教員	○ 保護者		
ロケーション	● 教室	○ 職員室	○ 体育館・グラウンド	○ 学校全体	○ 自宅
校　種	● 小中学校	● 高校	● 大学		
シーン	● 授業	○ 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　○ 保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

一斉授業の中で母国語による理解を保障することで、当該児童生徒が学級の同じ活動に参加できる環境を整えるものです。

● **先生の話をリアルタイムに通訳**
先生がマイクをつけて日本語で授業を行うと、その音声がAIによって瞬時に通訳され、生徒の端末にテキストと音声で共有されます。

● **GIGA端末ですぐに使える**
ブラウザ上で動作するためアプリのインストールは不要。学校で配布されている端末でそのまま利用できます。

● **77言語・複数人に同時対応**
生徒は自分の母国語を選んで通訳結果を確認できます。マイナー言語にも対応しています。



さまざまなシーンでご利用いただけます


一斉授業


グループワーク


保護者や児童生徒との面談（双方向モード）


保護者会・説明会

お問い合わせ・詳細

URL　https://pocketalk.jp/column/school

公式ウェブサイト

背景と解決したい課題

● **授業中の孤立と学習の遅れ**
言葉が分からないため「ノートに落書きをして時間を潰している」といった状況が発生し、学習の遅れや不登校につながっています。

● **保護者との面談**
言葉が分からない保護者とのやりとりに生徒に通訳してもらうなどの状況を解消できます。

● **現場の先生の負担**
急な外国人生徒への対応や、授業中の個別フォロー、取り出し授業との時間割調整、教職員確保、通常授業との内容連携、保護者対応など、現場の先生の業務を大きく圧迫しています。



目指す姿

● **すべての生徒が安心して参加できる環境**
言葉が通じない不安を解消し、だれ一人取り残さない授業を実現します。

● **学習意欲の向上と「心のケア」**
母国語での理解が自己肯定感を高めます。また、繊細な思いを直接受け止めることができるため、学習面だけでなく心のケアにもつながります。

● **先生の働き方改革**
通訳業務や時間調整の手間を削減し、先生が本来の指導に集中できる環境を作ります。

● **「通常学級でともに学ぶ・インクルーシブ教育」を実現**
～教室内の「分断」を生まない～
従来の端末型は、先生が個別に声をかける「1対1」の場面での利用が中心となり、その子だけが特別な対応を受けているように見える“分断”が生まれがちでした。
ポケトーク for スクールは一斉授業の中でそのまま使えるため、子どもがクラスに自然に溶け込むことを後押しします。

● **児童生徒の主体的な学びをサポート**
自分のGIGA端末の操作で母国語で授業が受けられるため、「学びたい」気持ちを大切にできます。また、外国籍の児童生徒が本来持つ母国語による思考力・知識を学習に活用することができます。

ポイント

● **「1対多数」のリアルタイム通訳が可能**
授業中に生徒が何人いても、ライセンス1つでOK。生徒との距離に関係なく、安定したスピードと精度で通訳されます。保護者会、進路ガイダンス、講演会等でも利用できます。

● **「1対1」の双方向通訳が可能**
先生と生徒、あるいは保護者との面談時など、互いの言葉をリアルタイムに翻訳し、スムーズな対話を実現します。

● **安心の定額制**
1ライセンス年間50,000円（税抜）で時間無制限、管轄内の複数校での使い回しが可能。

●「1対多数」



●「1対1」



導入事例

● **名古屋市教育委員会**
受験を控えた中学生に配備。学習の遅れが将来を左右するため通年で利用。

● **神戸市教育委員会（動画公開中）**
来日直後の「サバイバルレベル」の生徒（新渡日4カ月以内）に重点配備。

～導入自治体例～
苫小牧市 / ニセコ町 / 仙台市 / 千葉県 / 成田市 / 府中市 / 練馬区 / 文京区 / 葛飾区 / 藤沢市 / 南足柄市 / 見附市 / 南魚沼市 / 山梨県 / 安曇野市 / 軽井沢町 / 京都府 / 貝塚市 / 吹田市 / 箕面市 / 神戸市 / 姫路市 / 尼崎市 / 西脇市 / 加古川市 / 田原本町 / 紀の川市 / 福岡県 / 志免町 / 由布市 / 日南市 / 名護市 / 浦添市など



導入事例動画 公開中
YouTube
https://youtu.be/jJ6Q-hhXGz8

LINEを使った保護者連絡ツール

LINE スクール 連絡帳

誰もが利用するLINEで学校のコミュニケーション課題を一挙に解決！

無料から

LINEスクール 連絡帳とは

LINEヤフーが提案する学校保護者連絡システム
教職員・保護者・教育委員会・PTA・部活動の連絡がスムーズに！

学校保護者連絡に必要な
基本機能は無料！



※1 国公立の幼稚園/保育園/小学校/中学校/高等学校/特別支援学校またはそれに準ずる学校に適用可　※画像はイメージです。学校ニーズによりメニューや機能は変更できます。

tags

利用者	児童生徒	● 教員	● 保護者		
ロケーション	教室	● 職員室	体育館・グラウンド	学校全体	● 自宅
校　種	● 小中学校	● 高校	大学		
シーン	授業	● 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

リリース1年で、すでに約50自治体、1,000校超で採用決定。保護者は使い慣れているLINEで学校からの連絡を受信・返信可能。

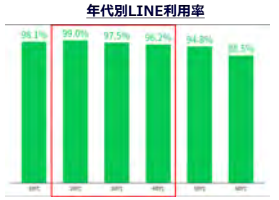
教職員は管理画面から配信・集計まで一括で行います。保護者同士・先生と保護者が個人のLINEで繋がることはありません。

01 保護者の浸透率が高い！
アプリダウンロード不要/高い開封率

国内月間利用者
1億人超※1



保護者層
20代～40代利用率
平均97.5%※2



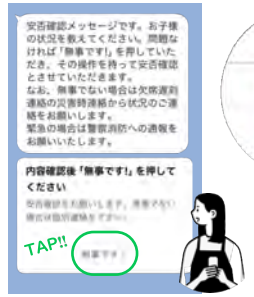
02 他社ツール連携で業務効率化！
名簿連携/年度更新不要

L-Gate　Evanix　デジタル校務　C4th※

月84時間の業務削減
（自社調べ　利用学校教職員への聞き取り）

※EDUCOM社「C4th」、内田洋行社「デジタル校務」との名簿連携については前向きに技術面の確認が進行中です。

03 災害時でも安心して使える！
災害時の活用実績あり





安定性の高いサーバーで
素早く確実に
安否確認

information　LINEヤフーが提案する学校保護者連絡システム

- 学習eポータルや校務支援システムとの連携をしており、名簿・出欠管理等の負担軽減と業務効率化を推進。
- LINEを利用していない、スマートフォンをお持ちでないご家庭にもWEB版で利用可能。
- 私立学校や地域移行による部活動に関する保護者連絡等での利用は専用プランがあります。

お問い合わせ・詳細

URL　https://www.lycbiz.com/jp/service/line-school-renrakucho

公式ウェブサイト

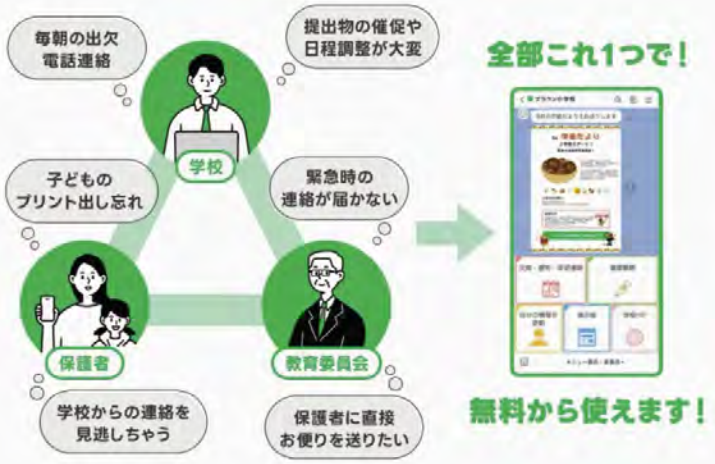
背景と解決したい課題

先生の長時間労働が社会問題となる中、保護者との連絡業務が現場の大きな負担となっています。



目指す姿

先生が煩雑な連絡業務や集金業務のストレスから解放され、子どもたちにしっかりと向き合える環境を整えることを目指します。



ポイント

❶ 無料から利用できる豊富な機能群

遅刻／早退／欠席連絡、既読確認付き配信、災害時安否確認、掲示板、アンケート、個別連絡、学習eポータル連携等が公立学校向けに無料プランで利用可能です。有料プランでは、日程調整、教育委員会配信、集金機能、校務支援システム連携、PTA機能、管理者承認機能、メニューカスタマイズなどが利用できます。

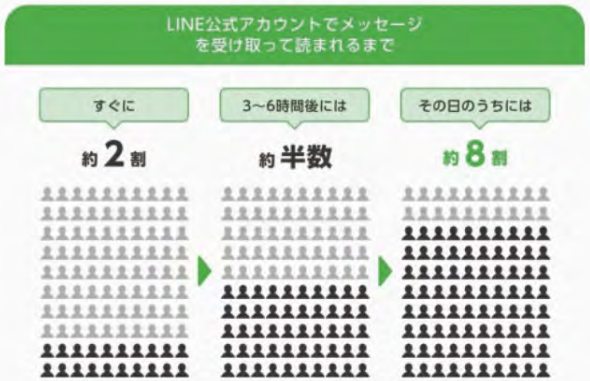
❷ 保護者が使いやすく、浸透率が高い

LINEアプリは国内月間利用者1億人超。みんなが使い慣れたLINEだから、新たなアプリをインストールする必要がなく、保護者へアプリ導入の促進や使い方の説明が不要です。

	他アプリ	LINE（つながる連絡）
QRコード読み込み	要	要
アプリインストール	要 10分	LINE でOK!
ID /パスワード設定	要 10分	
初期登録	要 10分	要 1分
再ログイン時の再入力	要	不要 LINEなら再ログイン不要！
パスワード再発行	要 1時間以上	

導入メリット

メールや他のアプリと比べて、普段使いのLINEなら
保護者の見落としを防ぎ返信も早いので、追いかけ電話等が不要になります。

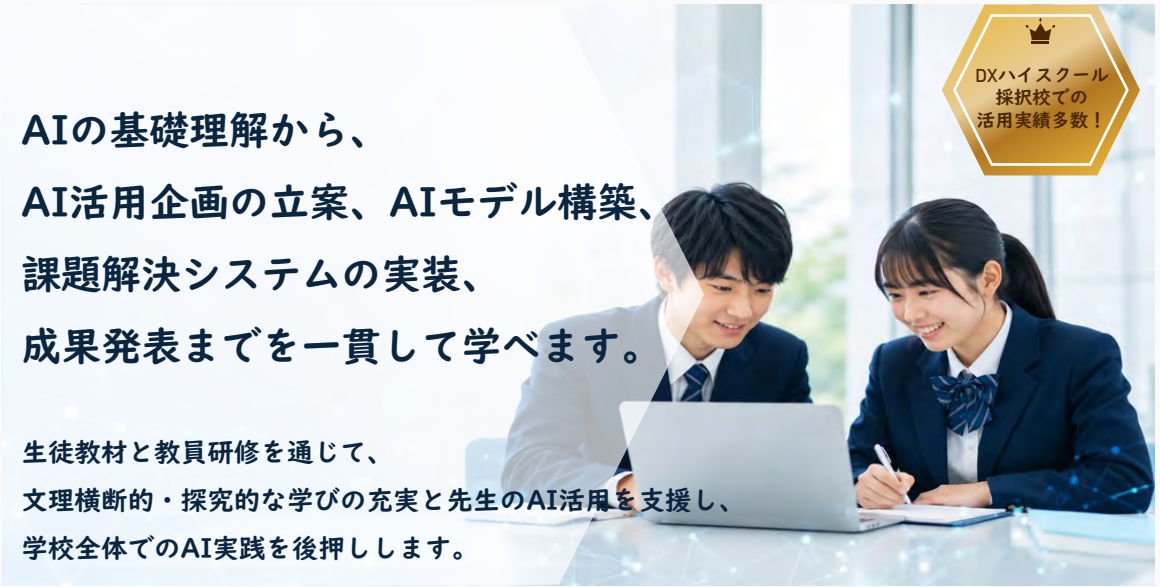




AI Challenge

探究学習を通じて AI活用人材を育成するプログラム

AIで課題解決をカタチにする。知る・つくる・役立てるをワンストップで実現。



AIの基礎理解から、
AI活用企画の立案、AIモデル構築、
課題解決システムの実装、
成果発表までを一貫して学べます。

生徒教材と教員研修を通じて、
文理横断的・探究的な学びの充実と先生のAI活用を支援し、
学校全体でのAI実践を後押しします。

知る	考える	つくる	役立てる	発表する
AIの仕組みや活用事例 生成AIのリスクと 適切な活用を学ぶ	身近な困りごとや 社会課題をもとに AI活用企画を立案する	識別・会話・予測・生成 などのAIモデルを 構築・体験する	要件定義、システム開発 評価・改善まで行い システムで課題解決する	AI実務者による講評や コンテストなどで 成果を可視化して発信する

tags

利用者	● 児童生徒	● 教員	○ 保護者		
ロケーション	● 教室	○ 職員室	○ 体育館・グラウンド	○ 学校全体	○ 自宅
校　種	○ 小中学校	● 高校	○ 大学		
シーン	● 授業	○ 校務			

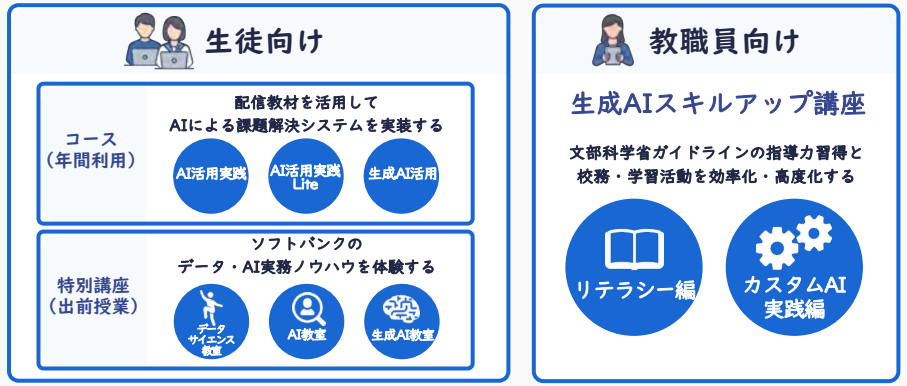
● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　○ 保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

生徒教材×教職員研修で学校のAI実践定着を支援

AIを活用して課題解決システムまで実装できる生徒教材と、校務効率化につながる教職員向け生成AI研修をセットで提供。

生徒の文理横断的・探究的な学びの充実と、先生のAI活用を支援し、学校全体でAI実践を定着させます。



情報Ⅰ・Ⅱや探究学習に対応し、AIの基礎からデータ活用、AIモデル構築、システム実装までを一貫して実践。ソフトバンクのAI実務者によるフィードバックや成果発表までを通じて、AIを「知る」だけでなく、自ら「つくり、活かす」力を育成します。DXハイスクールやN-E.X.T.ハイスクールが目指す、文理横断・探究的・実践的な学びを実現します。

1 情報Ⅰ・情報Ⅱ・探究に対応

各教科や学習の単元に教材が対応し、基礎から応用、探究まで体系的にサポート。既存授業に無理なく組み込めます。
N-E.X.T.ハイスクール拠点校での導入も可能です。

情報Ⅰ
情報Ⅱ
探究学習
部活動



2 AIを使うだけでなく、モデル構築からシステム実装まで

データを集め、機械学習・ディープラーニングでAIモデルをつくり、評価・改善するプロセスを実践。生成AIの活用にとどまらず、AI技術そのものを学び、システム実装まで行います。

AIモデル構築　識別系AI　予測系AI　会話系AI

生成AI活用
- 探究学習用プロンプト
- 生成AIリテラシー
- ファクトチェック

3 AI実務の知見を還元し成果発表まで支援

生徒が作成したAI活用企画に対し、ソフトバンクAI実務者が社会実装の視点から講評を実施。
全国情報教育コンテストでは、企業賞の授与と作品審査で生徒の挑戦をサポートします。

全国情報教育コンテストへの接続
AIチャレンジ導入団体からの応募実績 20%超
※ 社内集計による
全情コン
生徒の学びの成果を全国規模の発表・評価の場へ！

お問い合わせ・詳細

URL　ソフトバンク株式会社 AIチャレンジ事務局
https://www.softbank.jp/corp/sustainability/special/ai-challenge/

公式ウェブサイト

AIを「つくる」とは？

データを用意し、AIモデルを学習・評価し、課題解決につながるシステムとして実装します。
生成AIを利用するだけでなく、AIがどのようにつくられ、社会の中で役立つのかを実践的に学びます。

つくれるAIの例

識別系AI

Webに実装



感染症予防のためマスク着用を識別

使用ツール：Teachable Machine (Google)
実装にはウェブカメラが必要

会話系AI

LINEに実装



新入生用の学校サポートチャットボット

使用ツール：Dialogflow (Google)
Google Workspace for Education導入環境では、管理者によるGoogle Cloud Platformの年齢制限変更が必要

予測系AI

Pepper／Webに実装



購入率の高いメガネフレームをレコメンド

使用ツール：Prediction One
（ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社）
Pepper利用にはPepper for Educationの契約が必要。
Webシステムとしても実装可能

※ AIツールは全てパソコンのブラウザ上で実行するため、高スペックパソコンやインストール作業は不要（iPad非対応）

生徒向け特別講座（出前授業）

年間教材（コース）に加え、目的に合わせて選べる特別講座も提供。
第一線で活躍する講師が学校で授業を行います。

データサイエンス 教室

スポーツを題材にした
客観的な分析力の習得



骨格推定技術で可視化された動作データをもとに、感覚に頼らない指導方針の策定を体験。統計の考え方（PPDACサイクル）を実践的に学び、根拠を持って意思決定する力を養います。

◆ **対象学年**
中学生・高校生

AI 教室

画像識別AIの構築を通じた
課題解決力の養成



Teachable Machineを用いた画像識別AIの構築に挑戦。機械学習の仕組みを実習を通して理解し、テクノロジーを社会課題の解決にどう役立てるかという視点を養います。

◆ **対象学年**
小学生高学年・中学生・高校生

生成AI 教室

生成AI利用スキルと
情報リテラシーの習得



文書生成AIの仕組みとハルシネーションのリスクを正しく理解。効果的なプロンプトの作成実習やファクトチェックの心得を学び、安全かつ高度な利活用スキルを習得します。

◆ **対象学年**
中学生・高校生

教員向け 生成AIスキルアップ講座

文部科学省のガイドラインを踏まえ、教員のAI活用指導力の向上と、校務・学習活動の効率化を支援します。

リテラシー 編

おすすめ対象 生成AIをこれから使い始める教職員

目的 文部科学省ガイドラインの理解と
リスク管理・適切な操作スキルを習得する



- □ 著作権リスク・情報のファクトチェック
- □ 効果的なプロンプトの基本
- □ 教育現場での利活用事例の紹介

オンライン学習 自身のパソコンで好きな時間に
eラーニングで学習

集合研修 専門講師派遣による学校での集合研修

カスタムAI実践 編

おすすめ対象 生成AIを活用しきれていない教職員

目的 自分専用のAI（カスタムAI）を構築し、
日常的な校務効率化と活用定着を目指す



- □ 業務特化型AIの設計と構築実践
- □ 45種のカスタムAIテンプレートを提供
- □ カスタムAIの実装演習（※要生成AI環境）

集合研修 専門講師派遣による学校での集合研修

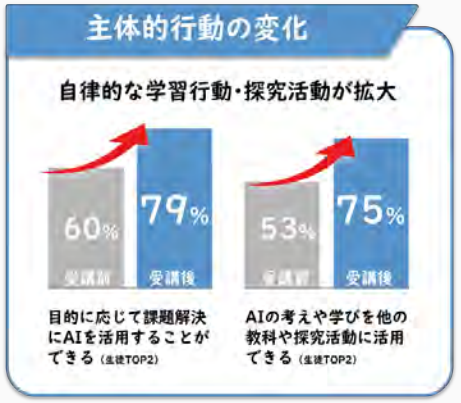
※ 学校・組織で導入されている生成AI環境にて Gem（Gemini）／エージェント（Copilot）／GPTs（ChatGPT）のいずれかが利用できる必要があります。

導入実績

AIチャレンジの学習者が80,000人を突破
導入累計300団体以上
※令和8年7月時点



～導入実績～
千葉県教育委員会 / 埼玉県教育委員会 /
香川県教育委員会 / 愛知県教育委員会 など多数



～教育効果測定～
生徒と先生の学びの変容を可視化する効果測定を実施。全体／学校別の分析結果を報告。

利活用研修（iPad基礎／応用）

Apple認定講師による研修で、「授業で使える」内容をハンズオンでご提供



tags

利用者	● 児童生徒	● 教員	● 保護者		
ロケーション	● 教室	● 職員室	● 体育館・グラウンド	● 学校全体	● 自宅
校　種	● 小中学校	● 高校	● 大学		
シーン	● 授業	● 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　● 保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

学校でのハンズオン研修で「まず使える」から「授業で使える」まで段階的に引き上げます。Appleの認定を受けたApple Professional Learning（APL）基礎スペシャリストがワークショップ形式で授業での活用を支援します。

●ポイント1
基礎研修でiPadの基本操作・純正アプリの基本を体験

●ポイント2
応用研修でApple認定スペシャリストが授業活用を支援

●ポイント3
基礎→応用で、日々安心して自信をもってICTを活用

研修メニュー　※一例

- **iPad基礎研修：**
  iPadの基本操作説明／純正アプリケーションの基本操作説明（ハンズオン）
- **iPad応用研修（APL）：**
  Pages／Keynote／Numbers／iMovie／Clips／GarageBand 等を使ったワークショップ
  ※ ご要望に応じて設計いたします

研修講師



Apple認定講師
松本 勇二郎



Apple認定講師
田中 光太郎

information　研修回数や研修時期など、要件の整理からご相談いただくことが可能です。

お問い合わせ・詳細

Mail　公共本部 教育DX推進部　SBMGRP-EduICT-prom@g.softbank.co.jp

背景と解決したい課題

GIGAスクール構想で端末整備が進む一方、
端末が「ある」ことと授業で「使える」ことの
間にはギャップがあります。現場では、ICTの活用計画を立てるのが難しい、端末を調達したが活用は学校に任せきりになってしまっている、研修でどんなことをやればいいの？といった悩みが出やすく、教職員側も基礎と実践の両方を必要としています。単発の座学だけでは定着しにくく、学校現場で手を動かす研修設計が必要です。

●ポイント1
研修設計が難しく「何をやればいいか」から迷う

●ポイント2
学校任せで活用が属人化・ばらつきやすい

●ポイント3
基礎と実践を授業につなげる場が不足



目指すべき姿

先生が自分の活用レベルを把握しながら基礎・応用・実践を段階的に学び、授業の中でiPadを自然に使える状態を目指します。
具体的には、困った時にすぐに聞ける、学びたい時にすぐに学べる、知りたいことをすぐに知れる状態を作り、教職員同士で共有して高め合えることが重要です。基礎研修で不安を減らして使い始め、応用研修のワークショップでアウトプットを作りながら授業活用の引き出しを増やします。

●ポイント1　基礎→応用で到達イメージが明確

●ポイント2　共有・高め合いのサイクルが回る状態を作る

●ポイント3　授業で使える所まで支援する



導入成功のポイント

成功のポイントは、事前設計→実施→振り返りで改善を回し、研修を「やって終わり」にしないことです。事前打ち合わせで課題とゴールを揃え、学校（教室・職員室など）でハンズオン中心に研修を実施します。基礎研修は操作と基本アプリを確実に押さえ、応用研修はApple認定スペシャリストがワークショップ形式で授業でのアウトプットにつながる活用を支援します。実施後はつまずきや反応を整理し、次回の研修内容に反映して定着を狙います。

●ポイント1
事前打ち合わせで課題とゴールを揃える

●ポイント2
現場ハンズオンで「できる」を増やす

●ポイント3
実施後フィードバックで改善を回す



実績



教職員向け生成AIセミナー

生成AIを、知る・試す・活用する。
学びを現場の実践へ



tags

利用者	児童生徒	● 教員	保護者		
ロケーション	● 教室	● 職員室	体育館・グラウンド	学校全体	自宅
校　種	● 小中学校	● 高校	大学		
シーン	● 授業	● 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

全国の教育委員会や学校で、教職員向け生成AIセミナーを実施しています。生成AIの基礎や教育現場での活用例を学び、実際に体験するワークとグループでの対話を通じて、自身の校務や授業での活用方法を具体化します。

●基礎と実践を組み合わせた体験型研修
●個々の課題や目的に応じてプログラムをカスタマイズ
●基礎編から中級編、年間伴走支援への発展

年間プログラムでは、eラーニング、基礎編、活用事例紹介、中級編、成果発表を段階的に実施。実践を共有しながら、継続的な活用と教育現場への着実な定着をご支援します。





このチラシは生成AIを活用して制作しており、セミナーでは、こうした案内物や資料を自ら形にする実践力も身に付けていただけます。

お問い合わせ・詳細

Mail　公共本部 教育DX推進部　SBMGRP-EduICT-prom@g.softbank.co.jp

背景と解決したい課題

生成AIへの関心が高まり、文部科学省から
教育現場での適切な利活用に向けた
ガイドラインが示されるなど、教育現場では、
安全性に配慮しながら活用を進めることが
求められています。

一方、現場では、活用場面を自身の業務に
置き換えにくい、研修後の実践共有やフォロー
が不足しているといった課題があります。

生成AIを自分ごととして捉え、適切な理解のもと
で活用し、教職員同士で学び合いながら、
現場での活用を積み重ねられる持続可能な
仕組みづくりが求められています。



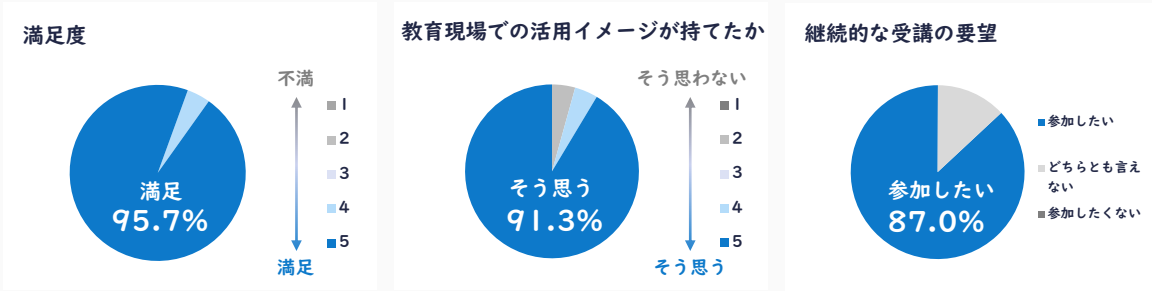
目指す姿

教職員一人ひとりが生成AIの特性を理解し、
校務や授業づくりの課題に合わせて、自ら考
え、試し、活用できる状態を目指します。
さらに、個人の活用にとどめず、実践例や工夫
を教職員同士で共有し、教育委員会や学校全体
の知見として蓄積します。

継続的な学びを通じて、教職員の実践力を高
め、その先にある校務の効率化、教育の質の向
上、子どもたちのより深い学びにつながる持続
的な基盤をつくります。



参加者アンケート結果



▶ 神奈川県横浜市立内小学校 教職員のアンケート結果より

参加者の声



普段ICTがあまり得意ではないのですが、
研修を経て私でもできそう！と思えました。

この研修会をきっかけに、学校の校務での活用が増えます！



受講後の変化



先生方のAIに対する関心もより高まり、
教材研究等で積極的にAIを活用しその成果物を共有しています。

研修で体験したワークを校務で活用するケースが増えました。



教職員用スマートフォン

モバイルの活用で、場所を選ばない校務と多様な働き方を支えます。



使う

場所を選ばない校務

通話・連絡・情報共有をどこでもスムーズに

電話、メール、チャット
カレンダー、ファイルなど

守る

安全な端末管理

MDMによる一元管理で、端末を安全に利用

- 一元管理（MDM）
- 遠隔ロック・ワイプ
- 利用制限・ポリシー適用

支える

導入・運用支援

導入から運用までワンストップでサポート

- レンタル
- キッティング（初期設定）
- 保守サポート（故障・紛失対応）

tags

利用者	○ 児童生徒	● 教員	○ 保護者		
ロケーション	○ 教室	● 職員室	○ 体育館・グラウンド	● 学校全体	○ 自宅
校　種	● 小中学校	● 高校	○ 大学		
シーン	○ 授業	● 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　○ 保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

教職員用スマートフォンを、校務に必要な連絡・確認・情報共有を安全かつ迅速に行うためのモバイル基盤として整備。端末管理や認証、各種アプリとの連携により、場所を選ばない校務環境を実現します。

●校務に適したモバイル環境を整備
音声通話やデータ通信、各種業務アプリを活用し、職員室に戻ることなく、連絡・確認・情報共有を可能にします。

●端末を安全に一元管理
MDMによる端末設定、アプリ配信、利用制限、遠隔ロック・消去などにより、業務端末を安全に管理します。

●導入から運用までトータル支援
端末のレンタル、初期設定、配送、故障・紛失時の代替機手配まで、教育委員会や学校の運用負担を軽減します。

1 プラン・端末選定

通話量・データ量・利用用途に応じて最適なプランと端末を選定

2 初期設定・配備

キッティングやアプリ設定を実施し、各拠点へスムーズに配備

3 利用・一元管理

校務で活用し、MDMで端末を安全に一元管理

4 故障・紛失対応

故障や紛失時も代替機をスムーズに手配し、業務を継続

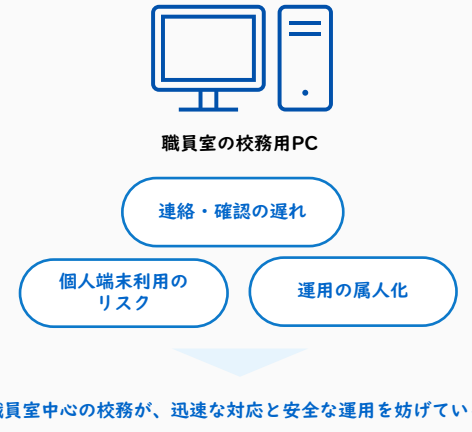
お問い合わせ・詳細

Mail　公共本部 教育DX推進部　SBMGRP-EduICT-prom@g.softbank.co.jp

背景と解決したい課題

職員室の校務用PCを中心とした働き方では、連絡や確認のために職員室へ戻る必要があり、迅速な対応が難しい状況です。
また、個人端末の利用は、紛失時対応やセキュリティルールの統一が難しく、管理者の負担にもつながります。

●連絡・確認・共有の遅れ
　職員室に戻る必要があり、対応が遅れます。
●個人端末利用による管理リスク
　紛失対応や利用ルールの統一が困難です。
●端末設定や問い合わせ対応の属人化
　担当者ごとに対応や品質がばらつきます。



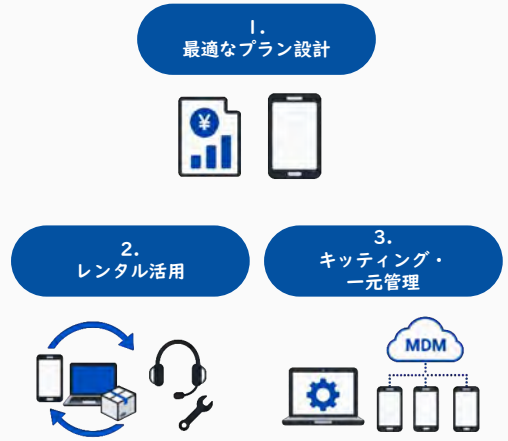
導入成功のポイント

利用実態に合ったプラン設計と、端末の調達・設定・管理を一体で行うことで、導入・運用負担を抑えた持続可能なモバイル活用を実現します。

●利用実態に応じた最適なプラン設計
　通話量やデータ利用量に応じて、
　最適なプランをご提案します。

●レンタル活用による運用負担の軽減
　資産管理を簡素化し、故障・紛失時も
　スムーズに対応します。

●キッティングから端末管理まで一元化
　初期設定から導入後の端末管理まで
　一括して支援します。



目指す姿



教職員一人ひとりが、場所を選ばず安全に校務を行える環境を整備。
端末、通信、セキュリティ、業務アプリを一体的に管理し、教職員の働き方改革と教育活動の充実につなげます。

●場所を選ばない校務
必要な連絡や確認を、いつでも行えます。
●安全で統一された端末利用
共通ルールのもと、端末を安全に利用できます。
●迅速な情報共有と業務効率化
連絡や情報共有を円滑にし、業務を効率化します。

導入事例

大規模自治体をはじめとする導入実績で培ったノウハウを生かし、確実でスムーズな導入・運用を支援します。

●大規模組織への導入・運用実績
　多数の端末を対象としたキッティング、配送、
　端末管理、故障・紛失対応など、導入から
　運用までを支援。

●官公庁・自治体向けの大規模運用実績
　大規模かつ高い運用品質が求められる案件
　での経験を生かし、教育委員会や学校現場に
　適した導入・運用を支援。



教育情報ネットワーク

ゼロトラストによるセキュアな環境で、教育データ活用と多様な働き方を支えます

次世代校務DXが創る「未来の学校」の姿

クラウド活用によるロケーションフリーとデータ利活用で学校運営をアップデート。
教職員の負担を減らし、子どもたちに最適な環境をご提供します。

校務DXが実現する3つの価値

❶ 場所に縛られない働き方

職員室に限らず、安全に
校務を行える柔軟な環境へ

- 働き方改革
- ロケーションフリー

❷ 一人ひとりに応じた教育

校務・学習データをつなぎ
きめ細やかな支援に活用

- 教育の高度化
- データ連携

❸ 学びを止めない学校運営

災害や非常時にも、安否確認と
教育活動の継続を可能に

- レジリエンス
- 教育活動継続

3つの価値を支える 次世代校務環境

セキュアな アクセス基盤

ネットワーク統合と強固なアクセス制御により、学校内外から安全に利用が可能。

クラウド型校務支援の 共同利用

共同調達によりコストを抑え、人事異動時のデータ移行も円滑に。

データ可視化・共有

出欠や学習状況をダッシュボードで共有し、チームで児童生徒を支援。

tags

利用者	● 児童生徒	● 教員	保護者		
ロケーション	教室	● 職員室	体育館・グラウンド	学校全体	自宅
校　種	● 小中学校	● 高校	大学		
シーン	授業	● 校務			

● タグの表記　● 教員　色が付いた項目＝該当します　保護者　グレーの項目＝該当しません

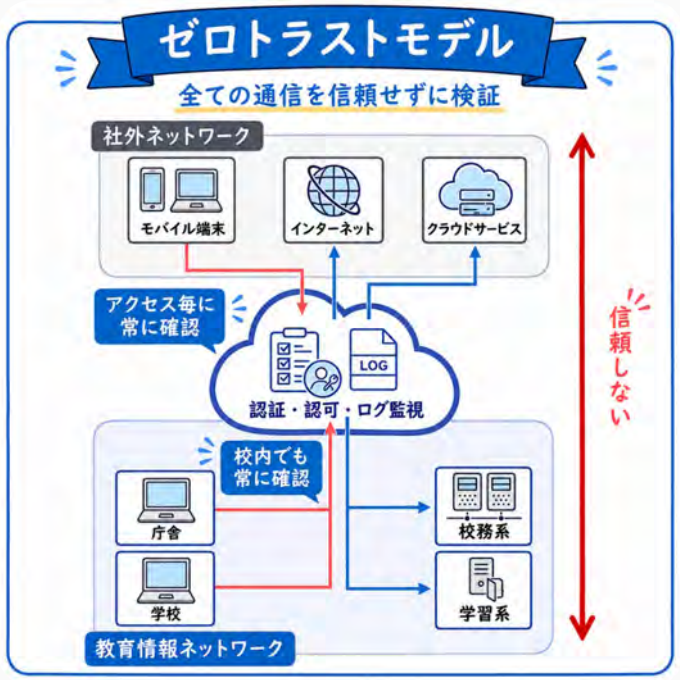
ソリューション概要

文部科学省が示す次世代校務DXの4要素（強固なアクセス制御、ネットワーク統合、クラウド型校務支援、データ可視化・利活用）を、学校現場で実装可能なネットワーク基盤へ具体化します。

●ゼロトラスト前提の統合設計
ID・端末・通信・データを常時確認し、校務系/学習系/クラウドを安全に接続。

●複数製品から最適構成を選定
SASE/SSE、ZTNA、CASB/DLP、EDR、MSS、バックアップなどを自治体要件に合わせて組み合わせ。

●導入から運用まで伴走
現状分析、ポリシー整備、共同調達、構築、監視・運用保守までワンストップで支援。



お問い合わせ・詳細

Mail　公共本部 教育DX推進部　SBMGRP-EduICT-prom@g.softbank.co.jp

背景と解決したい課題

GIGAスクール構想の進展により、
校務・学習を取り巻くICT環境は大きく
変化しています。

一方、校務系・学習系ネットワークの分離やオンプレミス中心の構成が残る自治体も多く、クラウドサービスや生成AIの活用、働き方改革など、新たなニーズへの対応にはネットワーク構成全体の改善が求められています。

文部科学省では「次世代校務DX」において、ゼロトラストを前提とした、利便性・セキュリティ・運用効率を両立する教育情報ネットワークへの移行を推進しており、ネットワーク基盤の整備が重要となって
います。



**ゼロトラストを前提としたシンプルで安全・快適な
次世代の教育情報ネットワーク環境が求められています**

目指す姿

校務系・学習系ネットワークを
ゼロトラストの考え方に基づく安全
かつ柔軟な教育情報ネットワークへ
転換します。場所や端末を問わず
各種クラウドサービスや生成AI等を
安全に利用できる環境を整備し、
認証・アクセス制御・端末管理・
運用監視を統合的に実施。
安全で柔軟な教育情報ネットワーク
への移行を実現します。

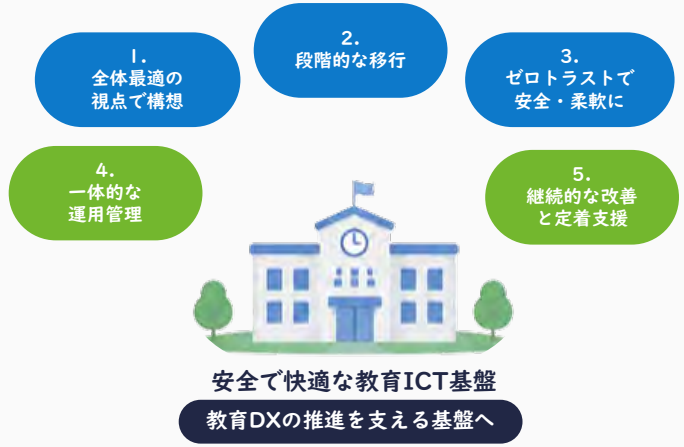
これにより、教育データの利活用や
教職員の多様な働き方の実現、
教育DXの継続的な推進を支えます。



導入成功のポイント

教育情報ネットワークの整備では、単なるネットワーク更改ではなく、教育DXを支える基盤として全体最適の視点で構想・導入を進めることが重要です。文部科学省が示す次世代校務DXの方向性を踏まえ、校務系・学習系・クラウドサービスを見据えたグランドデザインを策定し、段階的にゼロトラスト環境へ移行することで、教育現場への影響を最小限に抑えながら安全性と利便性を両立できます。

また、ID管理・端末管理・ネットワーク・運用監視を一体的に整備し、継続的な運用改善と教職員への定着支援を行うことで、持続可能な教育ICT基盤を実現し、将来の教育サービスや生成AI活用にも柔軟に対応できる環境を構築できます。

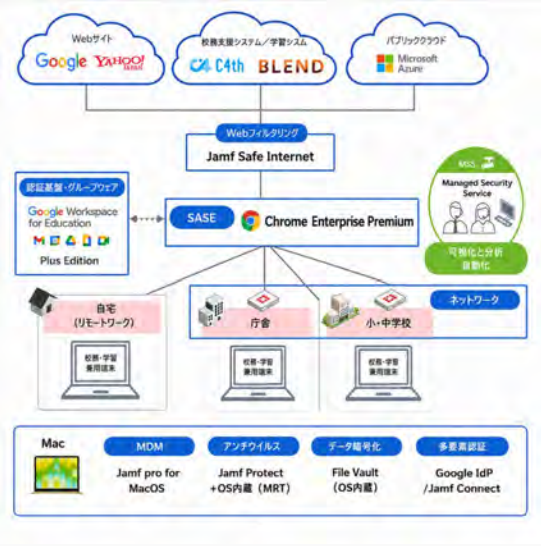


ご提案構成例

校務支援システムや学習システム、クラウドサービスをゼロトラスト型ネットワークで安全に接続し、学校・教育委員会・自宅など利用場所を問わない統一したアクセス環境を実現します。

認証基盤、Webフィルタリング、SASE、端末管理、運用監視を一体的に提供することで、高度化するサイバー攻撃への対策と運用負荷の軽減を両立します。

教育DXを支える次世代教育情報ネットワークとして、安全性・利便性・運用効率を兼ね備えた持続可能なICT基盤を構築します。



高等学校向け
一人一台学習用タブレット

TANAKA DENKI

充実した保証とヘルプデスクで先生の負担を軽減



日々のお困りごとから故障対応まで
充実したヘルプデスクの提供

1. 無料で何度でも直せる保証サービスの提供
2. 先生の日々のお困りごとも直接解決
3. 故障や操作説明も生徒と直接やり取り
4. 修理後の再設定もすべて代行可能

tags

利用者	● 児童生徒	● 教員	● 保護者		
ロケーション	● 教室	● 職員室	● 体育館・グラウンド	● 学校全体	● 自宅
校　種	● 小中学校	● 高校	● 大学		
シーン	● 授業	● 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　● 保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

導入から運用まで、ワンストップで支援





■ **3つのOSに対応**
Windows・ChromeOS・iPadOSなど、多様な学習環境に対応

■ **幅広い導入規模**
数百台～数千台まで、小規模校から大規模自治体まで実績多数

■ **専任担当によるサポート**
端末販売や集金代行に対応し、学校の保護者対応の負担を軽減





導入支援内容

■ **初期設定・キッティング**
端末のOS設定やアプリ導入などを行い、届いたその日から授業や業務で使える状態に整えます。

■ **セキュリティ対策**
フィルタリング設定やウイルス対策など、安全で安心なICT環境を構築し、不正利用や情報漏えいを防ぎます。

■ **運用支援**
校内Wi-Fiとの接続や設定もサポート。日々の運用負担を軽減し、安定稼働を支えます。

お問い合わせ・詳細

Mail	公共本部 教育DX推進部　SBMGRP-EduICT-prom@g.softbank.co.jp
URL	https://www.tanaka-denki.co.jp/service/business/education/

公式ウェブサイト

背景と解決したい課題

Before

高等学校におけるタブレット利用での先生の業務負担が大きい



After

タブレット運用における先生方の負担をすべてアウトソースしてもらうことで、授業での利活用に集中してもらう



TANAKA DENKI



導入事例

● 修理の対応や、修理完了後の再設定に毎月時間を取られていたが、生徒と直接やり取りをしてくれキッティング済みを返却してくれるので負担が大幅に減った。

● 年次更新やMDMの構築などをすべて代行してくれ、希望を伝えるだけですぐに利用できる状態にいつもしてくれている。



田中電気株式会社について

田中電気の文教事業は、全国の小中学校・高校・教育委員会を対象に、教育用端末の販売から導入支援、運用・保守サポートまでをワンストップでご提供しています。

2021年の事業開始以来、全国100校以上・累計6万台以上の導入（iPadOS端末 28,000台以上・ChromeOS端末 22,000台以上・Windows端末 10,000台以上（2025年9月時点））の実績を積み重ねてきました。
GIGAスクール構想により一人一台環境が整う一方で、設定やセキュリティ、教職員のICT活用など課題も残されています。私たちは豊富な経験と現場ノウハウを生かし、最適な端末選定、ネットワーク整備、運用サポートまで幅広く支援。
安心してICTを活用できる環境を整えることで、子どもたちが未来を切り拓く力を育む学びの場を支え続けます。

● Site URL： https://www.tanaka-denki.co.jp/service/business/education/

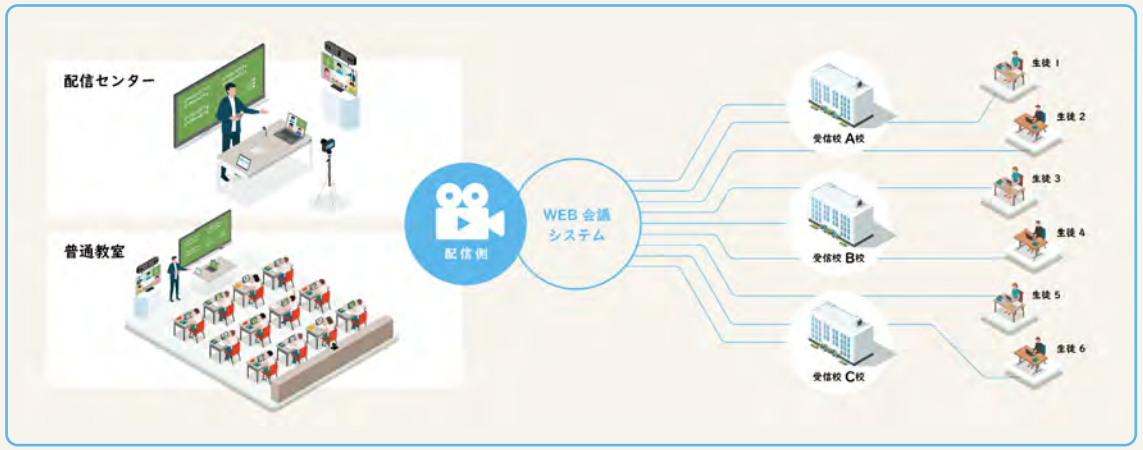
ハイブリッド授業を成功させる
遠隔授業ソリューション

SB C&S

オンラインも対面も、質の高い学びを止めない

感染症対策　不登校・病気の生徒支援　遠隔地から専門講師の授業

あらゆる授業の実施を遠隔授業で解決！



tags

利用者	● 児童生徒	● 教員	保護者		
ロケーション	● 教室	職員室	体育館・グラウンド	学校全体	自宅
校　種	小中学校	● 高校	大学		
シーン	● 授業	校務			

● タグの表記　● 教員　色が付いた項目＝該当します　保護者　グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

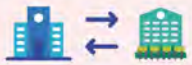
遠隔（ハイブリッド）授業で、多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

さまざまな理由で登校困難な児童生徒にも、ICTの力で平等な学びを提供できます

遠隔授業を活用した学校間や遠隔地の専門講師との連携により、場所を問わず多様な教育機会をすべての学生・生徒へデジタル技術を駆使し、地理的制約を超えて児童生徒の「好き」や「得意」を伸ばす質の高い学びを選択する機会を与え、「平等な学び」を実現することが可能です。



学校間連携



自校にない科目を他校とシェアする「リソース共有型」の連携を推進。学校・教育委員会が連携・協働し、生徒が興味関心に合わせて、学校の枠を超えた授業を選択可能にします。

遠隔授業の標準化



配信設備を整え、対面とオンラインが一体となって学べるハイブリッド型教室環境を構築。双方向のコミュニケーションを可能し、地理的制約がなく、質の高い学びを実現します。

グローバル人材育成/日本語教育



留学支援を含むグローバル人材育成支援や、日本語指導が必要な生徒に対する体制整備を図る。

information　その他、構成の教室設置イメージ

教室への機器設置イメージ動画をご確認ください

https://licensecounter.jp/gigaschool/ict/hybrid-class/#anker3

イメージ動画

お問い合わせ・詳細

URL　https://licensecounter.jp/gigaschool/ict/hybrid-class/

公式ウェブサイト

N-E.X.T.ハイスクール構想とは

N-E.X.T.ハイスクール構想は、各都道府県に設置される「高等学校教育改革促進基金」を財源とし、3つの柱である「アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成」「理数系人材の育成」「多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保」を軸に地域の実情に応じた先導的な改革を推進します。



なぜ今、高校改革は必要なのか？

2040年、日本は「人材」と「学びの場」という二つの大きな課題に直面します。生産年齢人口の減少や産業構造の変化により、深刻な労働力の需給ギャップが発生し、従来の教育システムのままでは社会の持続可能性を維持することが困難になると予測されています。

生産年齢人口の減少



高校生数の減少により、従来の「一斉授業」は維持困難に。少人数だからこそ可能な、一人ひとりに最適化された深い学びへの転換が急務。

労働力の需給ギャップ



事務職が自動化される一方、高度な技術職やエッセンシャルワーカーが不足。「正解を出す力」から「価値を創造する力」へのシフトが必要。

教育機会・アクセスの危機



地方の高校が消滅の危機に。物理的な距離に縛られず、最新の教育にアクセスできる「デジタルと融合した校舎」への刷新が求められています。

遠隔授業を成功させるポイント

01



「映像」よりも「音声」の品質を最優先する

ハイブリッド授業において、最も学習の妨げとなるのは「映像の乱れ」ではなく「音声のトラブル」です。教室側の教員の声がクリアに届くことはもちろん、**オンライン参加の生徒の声が教室全体に自然に聞こえることが重要です。**

02



教員の負担を最小化する「準備・操作の簡略化」

授業ごとの機材セッティングや複雑なアプリ操作は、多忙な教員にとって大きな心理的・時間的負担となります。誰でも迷わずに使える**シンプルな操作性や、常設機材による「準備ゼロ」の環境づくりが不可欠です。**

03



教室と配信先で「学習体験の格差」を生まない工夫

対面・オンライン問わず、同等の学びが得られる「公平性」の担保が必要です。これには、黒板の文字を鮮明に届ける映像技術だけでなく、オンライン参加者が発言しやすい空気づくりなど、**物理的な距離を感じさせない工夫が成功の鍵となります。**

SB C&Sが推奨する遠隔授業

Neat製品を軸にした機器設置イメージ



ハイブリッド授業実施教室 機器構成例

1 ビデオバー操作コントローラー



2 ビデオ＋マイク＋スピーカー一体型ビデオバー



3 拡張マイク



4 書画カメラ



5 大型モニターもしくは電子黒板



クラウド録画AIサービス



LINE WORKS Vision

制度対応から未然防止へ―日本版DBS時代の教育安全対策

クラウドカメラで、

見守りの空白をなくして子どもを守る。



学校・塾・保育施設など、
子どもが過ごすあらゆる場所の
安全と安心を支えます。

法令対応や、いじめ等の
トラブル対応を支援します。

いつでも遠隔確認

PCやスマートフォンから、
映像を確認できます

動・音を検知

動きや音を検知するとすぐにお知らせ。
早期対応につながります。

クラウドに保存

映像はクラウドに安全に保存。
必要な時にすぐに
振り返ることができます。

tags

利用者	児童生徒	● 教員	保護者		
ロケーション	● 教室	職員室	体育館・グラウンド	● 学校全体	自宅
校　種	● 小中学校	● 高校	大学		
シーン	● 授業	● 校務			

● タグの表記　● 教員 色が付いた項目＝該当します　保護者 グレーの項目＝該当しません

ソリューション概要

他の先生方の目が行き届きにくい場所を可視化し、
盗撮が発生しやすい場所では抑止につながります。



教室



面談室



廊下



グラウンド・屋外

LINE WORKS Visionは、クラウド録画型の防犯・見守りカメラサービスです。従来のオンプレミス型カメラとは異なり、専用のレコーダーやラックを施設内に設置する必要がないため、省スペース化と管理工数の削減を実現します。
撮影した映像は、セキュアなクラウド環境に保存されるため、情報漏えいのリスクを抑えながら安全に管理できます。また、機器の故障や災害による破損、録画機器の盗難などに起因する映像消失リスクの軽減にもつながります。
教育・保育の現場には、子ども同士のけんかやトラブル、いじめの事実確認、幼児の見守り、盗撮をはじめとする性犯罪への対策など、さまざまな安全上の課題があります。
LINE WORKS Visionを通じて、子どもや教職員・保育従事者、そして保護者の皆さまが安心して過ごせる環境づくりを、ソフトバンクが支援します。

LINE WORKS Visionは、子どもが安心して過ごせる環境づくりをサポートします。

※カメラの設置・運用にあたっては、個人情報の保護に十分配慮し、各種ガイドラインや法令等に基づいてご利用ください。

お問い合わせ・詳細

Mail　公共本部 教育DX推進部　SBMGRP-EduICT-prom@g.softbank.co.jp

背景と解決したい課題

子どもに対する性犯罪や性暴力は、依然として深刻な社会課題です。2022年には、子どもが主たる被害者となる性犯罪の認知件数は2,766件となり、再び増加傾向に転じています。
加えて、学校内での盗撮やSNSでの拡散など、新たなリスクも顕在化しています。
こうした状況を受け、「こども性暴力防止法」が2026年12月に施行され、これまで以上に未然防止に向けた具体的な対策が求められます。



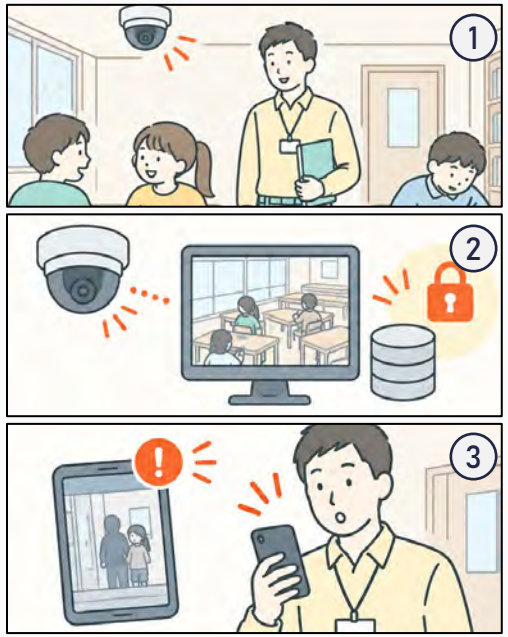
目指す姿

クラウドAIカメラの活用により、抑止・記録・迅速な対応を可能にし、子どもや先生の安全を守ります。

1. 性犯罪を抑止できる状態
死角をなくし、不適切行為が起きにくい環境を構築します。

2. 記録される状態（証拠の保全）
映像を記録し、あとから確認できるようにします。

3. 初動対応を迅速にできる状態
先生へ即時に共有し、速やかに対応できる仕組みを構築します。



ポイント

LINE WORKS Visionは以下の特長を備え、安心して利用いただけます。

①クラウド型カメラ
施設内にレコーダーがないため、データの持ち逃げや紛失を防止します。

②高セキュリティ性
通信経路・映像保管ではすべて暗号化され、多要素認証・権限管理・履歴管理などを備えています。

③動態検知・音声検知・接続切断検知
動態や音声、カメラの切断を検知し、記録・通知により異常を早期に把握することができます。

④AI検索機能
服装、持ち物、メガネ等から人物を検索することができます。これにより、トラブルが発覚した際の不審者や児童を素早く特定することができます。





導入メリット

万が一の際に「なぜカメラを設置していなかったのか」を問われる時代において、事前に対策できる点が導入の大きなメリットです。
カメラを設置することで子どもと先生を守ることはもちろん、予期せぬトラブルや異常事態を即座に把握し、迅速な初動対応が可能となります。

「映像を残す」ことで、万が一の際に動画を用いた説明が可能となります。また、トラブルを未然に防ぐために従業員教育にも活用できます。
結果的に、安全対策を見える化することで、保護者の安心・信頼につながります。



大学DXを実現する スマートキャンパス

教育・業務・産官学連携を推進し、大学の魅力と競争力向上へ

タグの表記　教員　色が付いた項目＝該当します　保護者　グレーの項目＝該当しません

tags

利用者	児童生徒	教員	保護者		
ロケーション	教室	職員室	体育館・グラウンド	学校全体	自宅
校　種	小中学校	高校	大学		
シーン	授業	校務			



学生の満足度向上・**教職員業務効率化**・**通信インフラ整備**
などを通じて、大学の魅力向上をご支援します

背景と解決したい課題

少子化の進行により18歳人口は減少し、定員充足率の低下や大学間競争の激化により、教育の質向上・学生満足度向上・経営力強化がこれまで以上に求められています。
一方で、システムやデータの分断・学生接点の最適化不足・DX施策の個別最適化といった課題により、全体最適でのDX推進が進んでいない状況です。
ソフトバンクは、通信・クラウド・AIなどの先端技術と自治体・企業とのリレーションを活用し、大学DXの推進と産学官連携を一体でご支援します。「スマートキャンパス」の実現を通じて、大学の魅力向上と持続的な成長に貢献します。

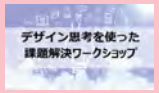
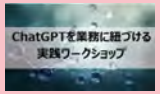
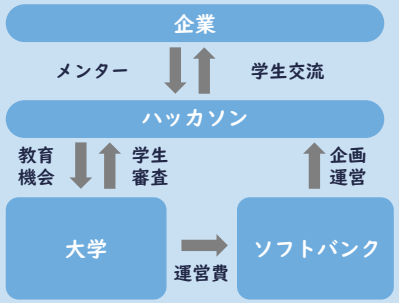
目指すべき姿

AI・データ・通信を融合し、学生体験・教職員業務・大学経営を横断して変革。教育・研究・社会連携をつなぐ“スマートキャンパス”を実現します。大学を起点に新たな価値創出を推進し、選ばれる大学への進化を支援します。

お問い合わせ・詳細
Mail　公共本部 スマートキャンパス推進室　grp-campus_sales@g.softbank.co.jp
お問い合わせ先

スマートキャンパスの実現に向けて（ご支援事例）

スマートキャンパスの実現、大学DXはソフトバンクにお任せください。大学の課題や状況に応じて、最適なDX施策をご提案いたします。研修・ハッカソン・AI活用・インフラ整備など、大学DXに必要な取り組みを一体でご支援可能です。お気軽にご相談ください。

	研修 ワークショップ	大学連携 ハッカソン	クラウド型 音声サービス	学内無線 LAN
ご提供内容	AI・DXを実践的に 学び、教職員・学生の 人材育成を支援 Input   Output  	産官学連携を通じて 学生の課題解決力と 創造力を育成 	電話環境のクラウド化で、 柔軟な働き方と 業務効率化を実現 UniTalkの仕組み Microsoft Teamsから ソフトバンクの通信網を通して 外線発信 （OperatorConnect方式で提供） 	AI活用により、 安定した通信環境と 運用効率化を実現 
導入実績	PBL・AI授業支援 AI活用ワークショップ  AI活用手法を学び 実践力が 高まった  AIを活用し 自分の業務課題が 明確になった  斬新な アイデアの創出 へ繋がった	龍谷大学×大津市／平和堂 「AIの力＋産官学連携」 「スマートシティ」をテーマに 大津市と連携  「スマートライフ」をテーマに 平和堂と連携 	九州工業大学 （窓口業務効率化） Before ● PBX更新費用・維持費が高額固定 電話依存で在宅・出張に不便 ● 窓口が1番号で同時着信できない After クラウド電話化により 維持費削減と利便性向上を 実現 ● PBX全廃で年間維持費15%削減 ● 出張・在宅勤務も同一番号で応答 ● 窓口業務は同時着信で効率化 ● 窓口は時間外に自動応答へ切替	東京大学 （全学統一NW実現） Before ● オンライン授業が普及し学内 ネットワーク環境の見直しが必要 ● 運用管理の分担が必要 After Mistで全学共通の安定した ネットワーク環境を構築 全国の部局で同一管理が可能に ● AIが最適なカバーエリアと 電波強度を自動で調整 ● ネットワークを可視化 ● 部局ごとに管理者権限を付与

教育ICTソリューションに関するお問い合わせ

お気軽にお問い合わせください

Mail　公共本部 教育DX推進部　SBMGRP-EduICT-prom@g.softbank.co.jp